

市町村名	にしあわくらそん 岡山県西栗倉村	人口 増減	ピーク 人口 (H2)	人口 (H17)	人口 (H22)	人口 (H27)	社会増減率 H17→H22	社会増減率 H22→H27
関係団体	西栗倉村、エーゼロ(株)		1,939人	1,684人	1,520人	1,472人	△5.36%	1.17%

取組の  
背景・経緯

○村の存続をかけて、百年の森林構想を策定

昭和30年代は、林業の村として栄えたが、木材輸入の増加や低価格化により林業が低迷し、森林の荒廃が進行。村の存亡をかけて平成20年に「百年の森林構想」を策定。美しい百年生の森林に囲まれた上質な田舎を実現するための取組を開始。

取組の  
成果

○移住者数:200名(平成21年～平成28年)

○移住起業家:29名(平成21年～平成28年)、新規事業による雇用創出:89名(平成21年～平成28年)

○ローカルベンチャー売上額:1億円(平成21年)→9.4億円(平成28年)

取組の  
概要

○百年の森林創造事業

村の面積の約80%を占める人工林は、50年前の先人が未来の子孫のために、一本一本広大な範囲を歩いて植えてきた。

平成20年に、この森林を世代を超えて守り育てていくため、通常は50年で伐採する木をあと50年村ぐるみで森林管理を行うことで、上質な木材による販売収入の増加や生物多様性の森を創造するための「百年の森林構想」事業を着想。

相続した山林の場所がわからない、管理ができないといった所有者から村が森林を預かり、森林組合に管理・整備を委託して、より付加価値の高い百年生の森林に整備する取組を平成21年から開始。

具体的には「西栗倉村長期施業管理に関する契約」を森林所有者、西栗倉村、森林組合の3者で締結。契約期間は10年間(更新可)で、施業にかかる費用を全て西栗倉村が負担。原木市場を経由せずに、森林組合の木材集積場で直接木材を販売するなどし、販売に係る手数料を差し引いた後の収益は、所有者に1/2を還元。残りの1/2は百年の森林創造事業の財源として西栗倉村が使用する仕組みを構築。

この百年の森林構想の取組に共感して移住した若者が、家具や内装材のデザインから制作・販売まで行う(株)西栗倉・森の学校や(株)ようび等のローカルベンチャーを次々に起業。地域に魅力的な雇用の受皿が生まれている。

(地方創生関係交付金を活用)

```

graph TD
    A[施業委託者  
森林所有者] -- "森林管理を委託" --> B[施業受託者兼  
再委任者  
西栗倉村]
    B -- "長期施業管理  
委託に関する  
契約" --> A
    B -- "森林整備を委託" --> C[施業受託者  
美作東備  
森林組合]
    C -- "適切に手入れのされた  
森林をお返し" --> A

```

ヒノキの椅子

無垢の木の「ユカハリタイル」

## ○ローカルベンチャー支援事業

【全国各地の自治体の広域連携による、都市部でのローカルベンチャー育成共通プログラム】

ローカルベンチャー支援に熱心な西栗倉村を中心とした全国各地の10市町村(※)と、起業家人材育成に実績をもつNPO法人エティック、西栗倉村で起業家人材育成をおこなってきたエーゼロ(株)が連携して、都市部で起業家人材を育成する共通プログラムを開発。

(※)北海道下川町、北海道厚真町、岩手県釜石市、宮城県石巻市、宮城県気仙沼市、石川県七尾市、島根県雲南市、岡山県西栗倉村、徳島県上勝町、宮崎県日南市

【西栗倉村でのローカルベンチャースクール】

エーゼロ(株)が運営する西栗倉村ローカルベンチャースクールでは、上記の共通プログラムの履修者等が企画立案したベンチャープランを審査し磨くことで、彼らの村でのローカルベンチャーの起業を支援。創業後も過度な補助金や借入に依存しすぎないよう、金融機関等と連携して成長ステージに応じた資金調達のアドバイスを実施。

【ローカルベンチャーと子育て支援の融合施設】

西栗倉村は、平成30年4月にローカルベンチャー支援と子育て支援を融合した施設「KIDS GARDEN LABO」を開設予定。子育て支援だけでなく、この施設で木製のおもちゃなど木育製品のニーズ調査や仕様テストも同時に実施し、木材製品の研究所としても活用していく予定。

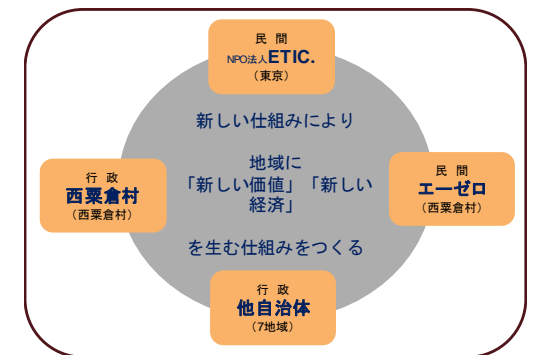
(上記の3つの取組全てにおいて、地方創生関係交付金を活用)



ローカルベンチャースクールの様子



KIDS GARDEN LABOのイメージ



広域連携による支援体制

## ○低炭素モデル地域創造事業

西栗倉村では、間伐材の薪ボイラー燃料としての有効活用や小水力発電による売電収入を活用した住宅用太陽光パネルの導入などを推進。こうした取組により平成25年に内閣府の「環境モデル都市」に認定された。

こうした資源の地域内循環を進める取組を通じ、地域内に新しい雇用が生まれ、熱供給を行うローカルベンチャーも生まれている。



薪ボイラー



小水力発電所

○行政がリーダーシップを発揮し、「百年の森林構想」という明確なビジョンを策定。このビジョンに共感した移住者が次々に起業し、ローカルベンチャーとして活躍している。

○ローカルベンチャー支援については、他自治体との広域連携によりノウハウを共有するなど、サポート体制を構築している。